

白山ふるさと文学賞

第一回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈母へのおもいに関する作文〉

小学生中学年の部 最優秀賞

わたしと母さんとあまのじやく

鳥越小学校三年

石倉

真理子

受賞の言葉

じゆしよの知らせを聞いたとき、とてもうれしかったです。一生けん命仕事をがんばっているお母さんのことを思って書きました。今もときどきあまのじやく虫が出るわたしですが、がんばって直そうと思います。

いしくら まりこ

わたしは、お母さんが大すきです。学校から帰った時、お母さんがいると、とつてもうれいしいです。でもわたしは、

「おかえり。」

と言つて、げんかんまで出てきてくれたお母さんの顔を見たとき、

「えーっ。母さんおつたんかあ。」

と言つてしまいます。そんなわたしをおばあちゃんは、「あまのじゃく」と言います。

わたしのお母さんは、マッサージの仕事をしています。兄ちゃんやわたしが小さいころ、仕事に行けないので、家でできる仕事をえらんだそうです。はじめは家で仕事をしていたけど、わたしたちが大きくなってからは、出かけて行って仕事をすることもありす。お母さんがいなくても、おばあちゃんがいてくれるから平気です。でも心の中では、しょんぼりしてしまいます。お母さんがるすにしている時のわたしは、とってもいい子です。お兄ちゃんとけんかをすることもありませぬ。でも、お母さんが帰つてきていそがしそうにしていると、わたしの中のあまのじゃくがすがたをあらわします。いそがしそうだからお手つだいをしてあげたいのに、かまつてほしくて、

「だっこしてえ。」

と言つてしまいます。それでもわたしの方をむいてくれないときは、

「おなかがいいたい。」

と言います。こまつた顔をするお母さんを見ると、わたしは自分のことがいやになります。時どき、「帰りは九時になります」とメールがくることがあります。そんな日は、母さんが帰る前にわたしと兄ちゃんは、先にねます。テーブルにお母さんのごはんをならべて、手紙を書いておきます。お母さんの顔を見るとあまのじゃくになってしまうけど、そうじやない日は、がんばっているお母さんにとつてもやさしくしてあげられます。自分で、自分のことがふしぎです。

お母さんがいない夜は、おばあちゃんがいつしよにねてくれます。三

人でしりとりをしたり、おばあちゃんがむかし話をしてくれたりします。

でもわたしの心は、「お母さんは今ごろどのあたりかな。」とお母さんのことばかりで、なかなかむれませぬ。ブーっど車の音がして、ガタガタつと車このしまる音がすると、あん心して、きゆうにねむくなります。

「わたしの用意したごはん食べたかな。」手紙読んでくれたかな。」と思つているうちに、いつの間にかねてしまいます。ねるときは、とつても心ばいしていたのに、次の朝お母さんの顔を見たとき、

「いつ来たん。おそかったね。」

と少しおこつた声で言つてしまいます。

ある日、あまのじゃく虫が出て、わたしがやんちゃをまいてると、お母さんが、

「真理子は、お母さんの小さいころとそっくりやね。お母さんの中にもあまのじゃく虫がいて、よくお父さん、お母さんをこまらせたわ。いけないと分かつていてもおこられるまで、なかなか自分ではたいじできないだよね。真理子の気もち、よく分かるよ。」

と言つて、頭をなでてくれました。そして、子どものころの話をしてくれました。お母さんのお姉ちゃんは、あまのじゃくなお母さんのせいで、子どものころいつもいやな思いをしていたそうです。それを今は、とてもはんせいしているのだと言いました。

わたしは、お母さんの話を聞いて少しあん心しました。お母さんがわたしの気もちを分かつてくれていたからです。それに、子どものころのお母さんとわたしがそっくりだと知つて、うれしくなりました。

夏休みになって、お母さんが家でマッサージの仕事をしていた時のことです。仕事のへやから出てきたお母さんを見て、びっくりしました。着ている服があせでびっしよりだったからです。お兄ちゃんと、せん風きのとり合いをしながらべん強をしていたわたしは、「ドキッ」としました。お母さんは、ひと休みもせず、わたしとお兄ちゃんのべん強を見て、お昼ごはんの用意をはじめました。お母さんが来たらだっこしてもらお

うと思っていたけど、がまんしました。いつものあまのじゃく虫を自分でたいじしました。つめたいお茶を入れてお母さんに持っていくと、

「ありがとう。」

とにっこりわらって、だっこしてくれました。わたしは、ギョツとだきついて、心の中で、「お母さん、大すき。」と言いました。だっこしてもらってうれしかったし、あまのじゃく虫をおこられる前にたいじできて、とてもいい気もちでした。

お母さん、これまではいそがしそうなお母さんにあまえたり、あまのじゃく虫でこまらせたりしてごめんなさい。ほんとうは大好きです。

お母さん、ありがとう。

